

今日のキーワード 今年の『GW』は旅行人数・消費額ともに増加

大手旅行代理店のJTBは毎年ゴールデンウィーク(『GW』)を前に、旅行動向調査の結果を発表しています。今年で50回目となる調査は、4月25日～5月5日の間に1泊以上の旅行に出かける人を対象に実施され、人気の旅行先や支出動向などが盛り込まれています。消費者心理を測る指標のひとつとして有用です。明日から始まる今年の『GW』は日並びの良さもあり休暇取得もしやすかったようで、旺盛な消費が期待されます。

ポイント1

国内旅行人数は過去最高を更新

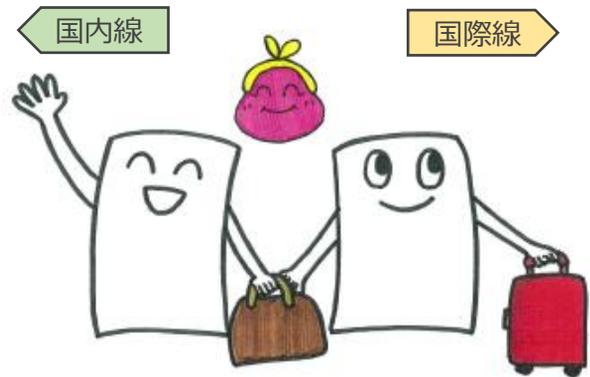
総旅行消費額は2001年以来の1兆円超となる見込み

- JTBが4月10日に公表した「2018年ゴールデンウィークの旅行動向」によると、『GW』の総旅行人数は前年比+1.0%の2,443万人と増加する見込みです。内訳を見ると、国内旅行は同+1.0%の2,384万人と過去最高を更新し、海外旅行も同+0.7%と増加の見込みです。今年は、4月の3連休と5月の4連休があり、5月1日と2日に休暇が取得できれば最大9連休となるなど日並びが良く、旅行に出かけやすいようです。
- 総旅行消費額は同+2.8%の1兆174億円と、2001年以来の1兆円超となる見込みです。内訳をみると、国内旅行は同+2.7%、海外旅行は同+3.4%と海外旅行の方が伸びが高くなっています。旅行平均費用は、国内旅行が同+1.7%の36,200円、海外旅行が同+2.7%の264,000円と、こちらも海外旅行の方が伸びが高くなりそうです。

ポイント2

海外旅行先では欧州が復調 国内旅行先では関東や東北が人気

- 今年の人気旅行先は、国内旅行先の割合を見ると、関東が22.0%を占めて最も多く、次いで東北(14.5%)、中国・四国(11.0%)となっています。
- 海外旅行先を人数別に見ると、香港やシンガポールなどが増加する見込みです。また欧州は、前年比+8.9%と最も高い伸びが見込まれているなど、復調傾向にあります。地域としては、アジアが全体の6割強を占めています。



今後の展開

景気拡大や働き方改革の影響から、より休みやすい『GW』へ

- 調査項目の「昨年と今年の『GW』の違い」では、「昨年よりも収入が増えた」との回答が16.5%と、前年比8.2%ポイント増加しました。また、「昨年より休みが取れそうにない」との回答は7.7%と、同▲5.8%ポイント減少しました。景気拡大や働き方改革の影響により、収入が増えたり、休暇が取りやすくなっているようです。旅行でのリフレッシュや、自宅でのんびり過ごすなど、過ごし方は様々ですが、『GW』での休息が明日への活力となりますように！

ここも チェック!

2018年4月16日 『さくらレポート』は2地域で景気判断を引き上げ

2018年4月11日 『街角景気』は天候の回復から4カ月ぶり改善

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。